

会議録

日 時	令和5年8月10日(木) 16:00~18:00
会 場	広葉交流センター2階 研修室/史跡旧島松駅通所(北広島市島松1番地)
出席委員	委員長:角 幸博 委員:平井 卓郎、森 朋子、圓谷 昂史、鹿内 洋一
欠席委員	副委員長:藤井 博、委員:細川 健裕
オブザーバー	北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 専門主任:内田 和典
市出席者	北広島市建設部都市整備課長:藤本 悟 北広島市建設部建築課長:瀬田松 秀一 北広島市経済部観光振興課長:橋本 征紀 北広島市建設部建築課 主査:真田 朋幸、主任:田中 大樹、 技師:石川 栞佑香
事務局	エコミュージアムセンター センター長:渡邊 篤広 主査:畠 誠(学芸員) 主任:黒田 弘子(任期付き学芸員) 主事:吉村 くるみ(学芸員)
委託業者	北電総合設計株式会社
会議次第	1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 史跡旧島松駅通所現地視察 4. 議事 史跡旧島松駅通所耐震補強・保存修理実施設計について ① 展示計画、サイン、検討資料 ② 屋根葺材の比較検討 ③ 屋根葺材の道産マツ材採用理由について 5. その他 6. 閉 会

1 開会

2 委員長挨拶

委員長よりあいさつ

3 史跡旧島松駅通所現地視察

事務局より史跡旧島松駅通所現地視察の誘導

(現地にて)

4 議事

史跡旧島松駅通所耐震補強・保存修理実施設計について

① 展示計画、サイン、検討資料

② 屋根葺材の比較検討

③ 屋根葺材の道産マツ材採用理由について

令和4年度基本設計より検討してきた展示計画、サイン内容について事務局から説明、委員による討議が行われる。

会議録

議案①【資料1（展示計画・サイン計画）】

- ・ 委員長：全体的に暗いので、パネル部分には照明を設置してはどうか。
- ・ 事務局：全体的に検討する。

- ・ 委員長：受付カウンターの高さは、管理の方々に配慮して、正座ではなくイスに座って受付が出来るよう高さを調整してはどうか。
- ・ 事務局：検討する。

- ・ 委員：導線について。順路はあるが、人によっては、逆に回るかもしれないが、そのところどうするのか。
- ・ 事務局：だいたいの順路は示すが、どこから見て回っても史跡としての価値は損ねない。今後パンフレットにも、順路を付けることも検討する。

- ・ 委員長：推薦順路を明記して、フレキシブルに対応できるよう事務局で検討してもらいたい。
- ・ 委員：史跡館内のデザインコンセプトや観覧者の理解目標はどのように設定されているのか。
- ・ 事務局：どなたが見ても史跡概要を知る事ができる各エリアとする。より深く知りたい観覧者は、QRコードからWEBサイトへアクセスすることができるよう検討する。（多言語を含む）

- ・ 委員：モニターや実物展示など情報量が多いと、観覧者の疲労や好奇心の度合いが懸念されると思う。また、木組み棚やパネルの設置場所は、もう一度検討してみてもどうか。
- ・ 委員長：パネルの設置方法の工夫をすると良いと思うので事務局で検討をお願いしたい。
- ・ 事務局：今後の検討事項とする。

- ・ 委員：他委員同様にパネルの大きさ、設置の場所、個数は、検討してみてはどうか。特に、暗い土間のパネルは、サイズが小さいので検討してみてはどうか。リーフレットに記載することとしないことを整理する。観覧者のプラスになる情報を検討してみてはどうか。モノと説明は、1対1の方が、観覧者はよく見られる。電子機器（屋根裏撮影スティック・QRコード・多言語）に関して、トラブルが懸念されるので、検討されるとよいと思う。サインについて 段差注意、展示するモノにもキャプションがあると親切で観覧者はよく見ってくれるので、検討してみてはどうか。
- ・ 事務局：ご指摘のありました箇所や土間に関しては、もう一度検討することにする。

- ・ 委員長：様々な有用な意見が出たので、それらを事務局で整理していこうと考える。

会議録

議案②,③ 資料 2-1、2-2 (屋根葺き材の比較検討について)】

屋根葺材の比較検討及び屋根葺材の道産マツ材採用理由について
事務局より説明、委員による討議が行われる。

- ・ 事務局：(昭和59年の改修時)道産材のマツ材での製材されているところや職人がいなく、当時はサワラ材の職人であった。
現在、ヘリテージサロン(文化財の職人の集団サロン)では、道産マツ材の葺きも可能であると位置づけているので、マツ材で復原をしていきたいと考えている。懸念されていることは、コストと対応年数かと思う。コストは、道産が若干安価な材料。対応年数は、サワラ材に比べて若干短い、防腐処理をすることで同等の耐久性は得られることが分かっている。
- ・ 委員長：時計台の材の変遷資料からもわかるように、道産材エゾ松やトドマツ、一時期サワラ材を使用していたことが分かる。事務局から道産マツ材の使用は可能であるという提案があるので、これについて意見はあるか。
時計台の屋根葺材について、エゾ松またはトドマツ、一時期サワラ材となっているが、時計台の玄関を復原する際に、エゾ松を使用したという事例があるため、事務局の方から説明があったように、せつかく道産マツ材が使用可能な状態であるため、積極的な活用をしても良いのではないかとというのが事務局の提案であるが、これについて意見はあるか。
- ・ 事務局：近隣の木材を使用していたと思われるので創建時は、道産マツ材であったと考えられる。
昭和59年報告書の資料には、駅通所の材料が、近隣の山から伐木に関する許可書が発行されているため、屋根の材料は、そこで切り出した材を使用しているのではないかと推測される。
サワラは、この辺りでは、自生していない木になるので、当時使用していた可能性の高い道産マツ材で施工すると、より創建時の姿に近づくのではないかと事務局では考えている。
- ・ 委員：オリジナルの材は、わかるのか。
- ・ 事務局：創建時の資料がないために、断定はできない。しかし修復している文化財は、サワラ材で葺いているところが多いが、修復の履歴のない文化財や柱の上に板金を張っている古い建物を見ると、道産マツ材を使用しているものが多い。
マツ材の供給ができなくなったことでサワラ材となっていたと思われるが、現在では道産マツ材が供給できるようになっていると確認できている。
- ・ 委員長：地産地消の観点から、道産マツ材で問題ないと思う。
- ・ 委員：道産マツ材の防腐処理で耐用年数20年を想定しているが、防腐剤が雨とともに溶出す可能性はあると思う。地元の材料を使用することで、メンテナンスが

会議録

容易になると思うので、こまめに修理していくという考え方の方がいいのでは。

- ・ 事務局：厚さによって、耐久性の違いはあるのでしょうか。
 - ・ 委員：もともと薄く、さほど変わらないので気にしなくてももの良いと思う。

 - ・ 委員長：旧花田家番屋（国指定重要文化財）では、一部マツ材を使用しているが、もし旧島松駅通所で屋根の全面に道産マツ材を使用するとすれば、他の史跡（北海道内）を持つ市町村担当においてもマツ材を使用したいという話もあり、視察が多くなるのではないか。
委員会としては、北海道産マツ材を柁材として使用していく事に意義は、ありますか？
 - ・ 各委員：意義は、ない。

 - ・ 委員長：それでは、了承いただいたということにさせていただきます。
 - ・ 事務局：本日の委員の皆様のご意見を事務局で整理、検討し委員各位には第2回検討委員会に反映したい。
- 5 その他
- ・ 事務局：次回の委員会は、11月～12月の開催を予定している。

6 閉会

会議録署名委員

角 幸博